

新型コロナアンケート第2弾「自粛期間後の生活について」回答

2020年11月
NPO 法人全国LD親の会

調査概要

【調査内容】

「新しい生活様式」が広げられていく過程が、発達障害児者にも無理なく進められ、多様性のある社会においてよりよい形にしていくために、全国的な宣言解除後の生活の様子と今後の要望について調査した。

【調査対象】

NPO 法人全国LD親の会会員

【調査期間】

2020年9月26日(土)～10月18日(日)

【調査手法】

Web アンケート

【回答者人数】

総数：298名

回答者の子どもの世代内訳：小学生・中学生 53名 高校生・専門学校生 41名
短大生・大学生 21名 就労準備中 28名
就労中・福祉就労 140名 在宅・その他 15名

I、日常生活の変化

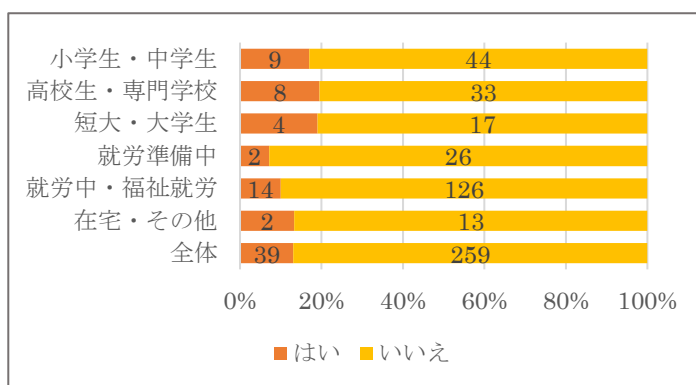
2020年5月4日、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ政府が示した「新しい生活様式」における実践例に沿って質問項目を作成した。

1、まめな手洗い・マスクの着用について

①困っていることはありますか？

- ・全体の13%が「まめな手洗い・マスクの着用で困っている」と回答
- ・小学生・中学生が17%、高校生等が20%、大学生等が19%と平均より高い傾向にある

	はい	いいえ
小学生・中学生	17%	83%
高校生・専門学校	20%	80%
短大生・大学生	19%	81%
就労準備中	7%	93%
就労中・福祉就労	10%	90%
在宅・その他	13%	87%
全体(平均)	13%	87%



グラフ中の棒上の数字は人数

②困っていること

【小学生・中学生】

- ・不織布マスクが苦手で失くしたり忘れてしまうので、布物をたくさん用意している。
- ・手の洗い方がいい加減で数秒洗っておしまいになってしまう。注意した時だけ洗い直す。
- ・マスクをしていると呼吸がしにくい。熱中症と頭痛に何度もなっている。
- ・感覚過敏でマスクをつけたくない。かなり努力が必要な事を周りに伝え、本人にも頑張らせている。
- ・コロナが怖すぎて、学校でマスクを外さないといけない場面でも外すことが出来ない。

【高校生・専門学校生】

- ・マスク着用を忘れてしまう。 ・マスク着用が苦痛な場合がある。 ・臨機応変が難しい。
- ・消毒の習慣化が難しい。決まったマスクしかつけられない。
- ・適切な使い方ができていない。また、布マスクは効果が無いと教えられたらそれにこだわる。

【短大生・大学生】

- ・手洗いを忘れる。声掛けしてもしない時が度々あった。アルコール消毒はしていた。

【就労中・福祉就労】

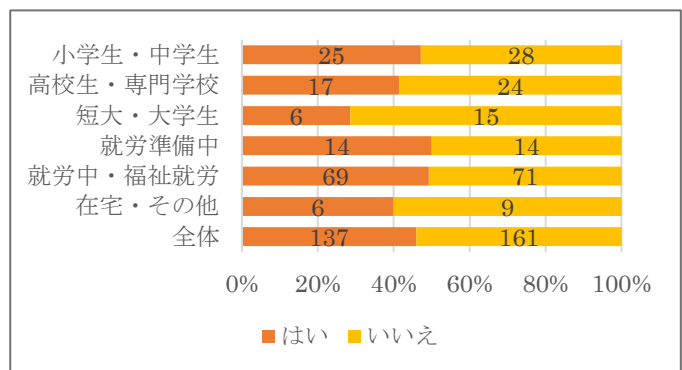
- ・マスクをしたくないという強い意志があるため、会場に入室できず活動に参加する機会が減った。
- ・マスクをしているので顔を覚えることができない。
- ・マスクで相手の表情がよくわかりにくい。
- ・本人が衛生管理できているか心配。ADHDなのでマスクを忘れやすい。
- ・本人の危機感がなく、マスクをしないままコンビニや仕事場に行ってしまう。
- ・マスクをしない人、ソーシャルディスタンスを守らない人に対して、相手がどんな人か、どう言えばわかってもらえるのかなどを考えずいきなり注意してしまわないか心配している。

2、買い物等で通販や電子決済が進められていくことについて

①情報の入手や手続き等で不安はありますか？

- ・全体の46%が、「電子決済が進められていくと情報の入手や手続き等で不安がある」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	47%	53%
高校生・専門学校	41%	59%
短大生・大学生	29%	71%
就労準備中	50%	50%
就労中・福祉就労	49%	51%
在宅・その他	40%	60%
全体（平均）	46%	54%



グラフ中の棒上の数字は人数

②通販や電子決済について不安なこと

【小学生・中学生】

- ・セキュリティが心配。 ・便利になったが、お金の管理や使い過ぎが心配。
- ・実際のお金のやり取りが減り過ぎて、金銭感覚が身につかないのではないかと心配。
- ・パスワード等の情報の管理を自分でできるようになるのか不安。
- ・間違えて偽のショッピングサイトなどに行ってしまうのか心配。個人情報の管理など心配。

【高校生・専門学校生】【短大生・大学生】

- ・子どもが受験生。最近模試・検定・出願等ほとんどがweb手続きである。学校や団体のHPや手続きサイトは、簡略化された説明しかなかったり、説明事項がサイトのあちこちに配置されていたり、暗黙の了解事項を理解しがたい本人にはとてもわかりづらい。
- ・ネット購入などのサイトが少し複雑になったり、分からない部分が出たりしたら無理。理解も困難で、電子マネーでネット決済、マイナポイントの操作など難しい。
- ・お金はあるだけ使ってしまうので、口座を親が管理している。親がいなくなったら困る。
- ・楽天やアマゾンの偽メールが頻繁に送られ、どんどん巧妙になっているので、騙されないか心配。

【就労準備中】

- ・契約書が理解できない。どのくらい使ったかわからなくなると思う。
- ・トラブルが起きた時に対応できるか心配。 ・詐欺に遭うことが心配。
- ・現在は親がフォローすれば利用できているが、親が対応できなくなった際の支援者はいるのか、クーリングオフなど、通常でない操作ができるのか心配。

【就労中・福祉就労】

- ・ポイント目当てで無駄な買い物をしているようで不安。 ・トラブルになりそう。 ・ケアレスミスが心配。
- ・多数ある決済方法から選択できるか、また携帯やカードを失くした時の対処ができるかが不安。
- ・ネット決済の仕組みや気をつけるべきポイントが理解できていない。
- ・今後、貯金や障害者年金・手帳(精神)の更新などがオンライン化された時に、本人よりもそれをサポート

する親がついていけなくなりそうで心配。

- ・金銭管理は難しい。少額の現金の理解がやっとなのでカードや電子決済などはとても無理。
- ・電子決済などで使いすぎないか。個人情報を入力する際、大丈夫なのか。限度額を把握できるか。

【在宅・その他】

- ・スマホ等の紛失や不正アクセス等で、本人の知らない間に被害に遭わないか不安。
- ・キャッシュレスによるお金の使い方が荒くなる、あるいは自覚しにくくなる。ネットによる詐欺が不安。

③どのようにすれば不安を軽減できますか？

【小学生・中学生】

- ・使い過ぎ防止の仕組みが確立されること。
- ・電子決済について図解入りの説明があると子どもに教えやすいと思う。

【高校生・専門学校生】

- ・サイト上でわかりやすい言葉での確かな説明がされるよう望みたい。・わかりやすいアプリの開発など。
- ・パソコンやネットの利用ではなく、ヘルパーさんと一緒に身近なスーパーで買える範囲で買い物をするのが、一番簡単で安心できると思う。
- ・電子化だけでなく、今まで通りの現金決算などを選択できるようになると良いと思う。

【短大生・大学生】

- ・セキュリティの安全性の担保。 ・情報を正しく理解しているか確認できるようにする。
- ・偽メールなど、家族でそういう問題を常に注意喚起する。

【就労準備中】

- ・具体的にどのようなトラブルが起きやすいか、どこに連絡、どのように対処すればいいか示しておく。
- ・詐欺のサイトかどうか分かる手段を知りたい。
- ・地域生活支援センターの支援員さんに困ったら聞けるよう繋がっていることが大事。困ったら聞くという基本的な姿勢と聞き方を身につけておきたい。

【就労中・福祉就労】

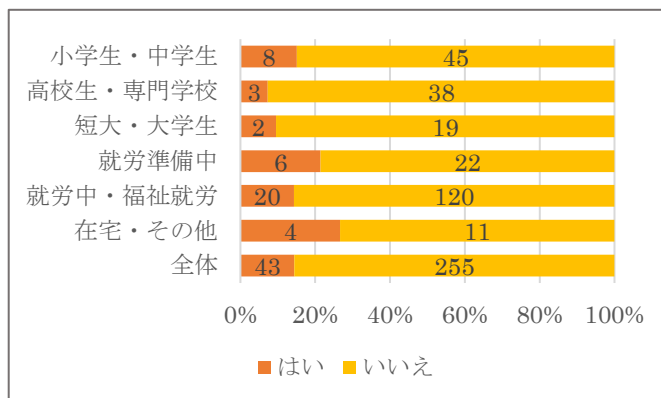
- ・金額の上限のない決済手段、複雑な決済方法は不安な為、プリペイド式のカードを持たせるようにしたい。
- ・やはり現金が安心。目に見える形がないものはわかりにくく、使いすぎたりしてしまいそう。
- ・ITに不慣れな人、初心者にもわかりやすい表現、音声等で案内してくれるとありがたい。カタカナ用語もわからない人がいることに配慮して、注釈などもつけていただけると、戸惑いや不安を払しょくできる。
- ・親の他にも相談できる、頼れる人を何とか見つける必要を感じる。

3、外出の際の身体的距離の確保や非接触対応について

①困っていることはありますか？

- ・全体の14%が「外出の際の身体的距離の確保や非接触対応等で困っている」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	15%	85%
高校生・専門学校	7%	93%
短大生・大学生	10%	90%
就労準備中	21%	79%
就労中・福祉就労	14%	86%
在宅・その他	27%	73%
全体（平均）	14%	86%



グラフ中の棒上の数字は人数

②困っていること

【小学生・中学生】

- ・通院時、公共交通機関を利用する時に何度注意してもあちこち触ったり、人に近づきすぎたりする。
- ・日頃から、人との距離が保つのが苦手なためソーシャルディスタンスが難しい。

- ・マスクをしていない人が近くにいる場合、さりげなく距離をとることが難しい。

【高校生・専門学校生】

- ・ソーシャルディスタンスを守れない人に、声を出して「近い」など言ってしまう。
- ・距離感がわからない。パーソナルスペースがうまく取れない。

【就労準備中】

- ・距離を取ることで自体に問題は無いが、状況によって変わる前提もあることを考慮するのは難しい。
- ・外出した時や並んだりする時に、自分の世界に入り移動することがあるので、誤解を招くことがある。

【就労中・福祉就労】

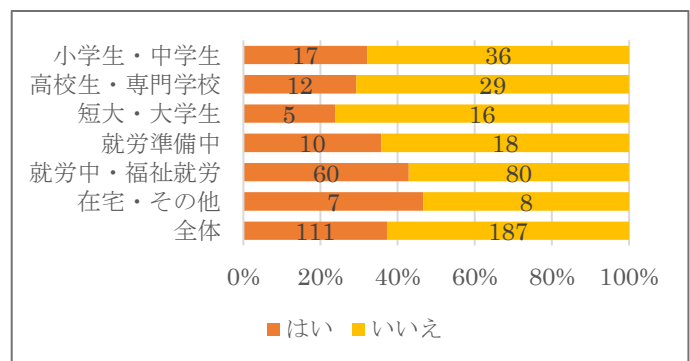
- ・通院でコロナが流行る前とシステムが変わっていて、対応ができなくて困った。急な変更に対応できない。
- ・ソーシャルディスタンスは感覚的なものなので、どう教えればよいか難しい。・距離感が理解できない。
- ・身体的距離を取ることはわかってはいるが、電車に乗る時の座席の位置のこだわりが強く、空いている場所を選ぶことは難しい。 ・話をする時、声大きい。
- ・衛生エチケットを守らない人を見るとあからさまに嫌な表情や態度が出る。

4、娯楽や趣味などの活動での身体的距離の確保やオンライン導入について

①不安なことはありますか？

- ・全体の37%が「娯楽や趣味の活動の身体的距離の確保やオンライン導入等に不安がある」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	32%	68%
高校生・専門学校	29%	71%
短大生・大学生	24%	76%
就労準備中	36%	64%
就労中・福祉就労	43%	57%
在宅・その他	47%	53%
全体（平均）	37%	63%



グラフ中の棒上の数字は人数

②娯楽や趣味などの活動での身体的距離の確保やオンライン導入で不安なこと

【小学生・中学生】

- ・友人と遊ぶ際、つつい距離感が保てず近づいてしまう。自分で気をつけて行動がとれない。
- ・段取りが変わったことや、みんなでジャグジーに入るのが無くなったため、スイミングに行くのを本人が気兼ねしている。
- ・外に行かなくなったので、運動不足やストレスがたまる。社会性を身につける機会が減る。

【高校生・専門学校生】

- ・人によって距離感が違うので、他者とトラブルになりやすい。
- ・人との交流が無くなることで、ネットに依存していかないか不安。

【短大生・大学生】

- ・少人数での取り組みなどにしているが、おもしろみに欠けるし思うような活動ができない。

【就労準備中】

- ・集まって話せないのが困る。オンラインでは通信状態などでイライラする。
- ・直接人に会う機会が減ると、元々苦手なコミュニケーションがますます不得手になりそうで不安。三密を避けるため、スポーツセンターもなかなか利用できなくなってしまい、余暇活動をどうしようかと悩む。

【就労中・福祉就労】

- ・オンラインのやり方など理解できるか心配。
- ・趣味の集まりがオンラインだと参加への動機付けが薄くなる。
- ・ネットのつながりが悪いとカッとなって物にあたってしまう。またネット画面に、突然現れるバナー広告がちらついてしまう。ネットに詳しくない障害者向けに、誰かネットのサポートをしてほしい。
- ・実体験が多く持てるような環境に早く戻ってほしい。

③どのようにすれば不安が軽減できますか？

【小学生・中学生】

- ・安全に簡単に利用でき、高額のコストが発生しないオンラインシステム。
- ・オンラインの練習がもっとできれば良い。

【高校生・専門学校生】

- ・オンラインに対応できる様に、PCやスマホの操作について教えてくれるところが必要。全盲でもあるので、接触せずに誘導するという事はあり得ないため、必要な接触確保できるような体制やアナウンスが必要。
- ・コロナの為にやり方を変更するときは、大雑把でなく具体的に説明してほしい。

【就労中・福祉就労】

- ・ネットトラブルが増えそう。電話相談のようなところがあればいいかなど。
- ・気をつけるべき事を具体化し、見える化すると不安が減ると思う。
- ・むやみに怖がったり、危険に無頓着だったりするので、本人向けの学習会を開いてほしい。

5、その他、日常生活における変化について

【小学生・中学生】

- ・外出が制限され家でゲームをする時間が増えた。ゲームばかりさせたくないが、友達と遊ぶ方法が他にない。
- ・休校中に昼夜逆転になり、その後も生活リズムが整わず学校を休む日が増えた。親もイライラしてきつく叱ることが増え、親子でこの先どのように立ち直っていけばいいのか？
- ・人との触れ合い、社会経験の中でこそ成長して行く。機会が減ってしまう。
- ・感染者を非難する風潮の中、もしも感染源になった場合に精神的に耐えられないのではないかと不安
- ・以前は療育などで毎日忙しくしていたが、のんびり過ごす事ができ、気持ちや体力的にも楽になった。
- ・家で過ごす時間が増え、家族でいろいろ話したり、料理したり一緒に何かやるようになった。

【高校生・専門学校生】

- ・コロナの未知なことに対する恐怖が息子のストレス。
- ・外に出る機会が減って、鬱傾向が強くなっている。 ・家から出たがらない。
- ・マスク着用で顔が見られないので、逆に安心感があるようだ。

【短大生・大学生】

- ・外出できないと考えているようで、娯楽のチャンスもなく自宅でほとんど携帯を触って過ごす日々。
- ・十分な余暇が楽しめずストレスが溜まる。 ・予定がコロコロ変わって対応に苦慮している。
- ・バイトに行かなくなり、家を出ることがほとんどなくなった。友だちとの交流が減った。ゲームの時間が増え体力が無くなった。生活リズムが崩れたまま。

【就労準備中】

- ・イベントなどの開催がなくなり、楽しめる時間が減った。ストレスが溜まり過ぎると、イライラが多くなる。接触軽減のために通院回数を減らさなければならない。
- ・コロナが心配で趣味も就活も思うようにならず、仕事も見つからず、家にこもるようになった。
- ・必要以上に感染への心理的警戒心が高まり、行動半径を大きく制限されている。

【就労中・福祉就労】

- ・会社と家の往復でストレスが溜まっている。医者のカウンセリングも受けにくいので困っている。
- ・外出できず、イライラしている。なぜ、行動を自粛しなければならないのか、説明しても理解しない。
- ・少々不健康な生活になり、体力が落ちて体調不良、怒りっぽくなったり、寝つきが遅くなったりしている。
- ・ちょっとした体調の変化があると、その後1週間ぐらいいは強い不安が続く。
- ・仕事の時間が短くなったので、家事の手伝いなどに気が回るようになってきた。

【在宅・その他】

- ・外に出なくなると、ネット依存が進んでいる。将来のことなども後回しになっている。
- ・グループホームに入居し就労継続B型に通っていたが、自宅待機の状態が続いたことで事業所をやめ、実家に帰ってきてしまった。
- ・非常に敏感で不安が強く、「〇〇していたら大丈夫」ということが無い。引きこもりが益々加速するばかり。

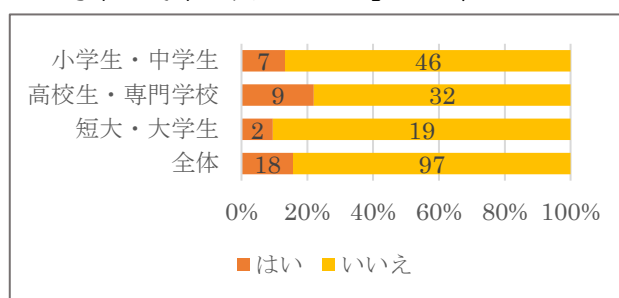
II、学校・園の環境変化

1、学校・園における感染症対策について

①困っていることや不安なことはありますか？

- ・小学生から大学生までの16%が「学校・園における感染症対策で困っている」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	13%	87%
高校生・専門学校	22%	78%
短大生・大学生	10%	90%
全体（平均）	16%	84%



グラフ中の棒上の数字は人数

②困っていること

【小学生・中学生】

- ・自分で意識して感染予防がとれない。
- ・もし自分や家族が感染した場合どうなるのか、それで学校に行けなくなってしまうたらどうなるか不安。

【高校生・専門学校生】

- ・高校の教室は常に「密」なので、わずかな体調の変化でもコロナを疑い、不安になっている。
- ・寮のある学校なので、毎年、他校と比較して、インフルエンザやノロの感染が爆発的に起きる。
- ・学校のコロナ対策はしっかりしていて安心している。

③どのようになれば不安が軽減しますか？

- ・マスク装着、人との距離を保つ、手洗いうがいなど、声掛けや確認してくれる人が必要。
- ・感染してしまった時、どうなるかが分かれば安心。
- ・少人数学級になれば不安が軽減できる。

2、休校や分散登校の影響について

【小学生・中学生】

- ・家で課題をこなさせるのは、親にとって本当に大変で苦痛。パニックからの家庭内暴力につながると思う。
- ・休校中は寂しかったようで、鬱になりかけていた。休校中も何かしら他の子ども達と関われる工夫が必要。
- ・通学か自宅学習かを当たり前を選択できるようになって欲しい。
- ・分散登校や休校で、何をしたいか分からないと不安になるので、スケジュールや課題表をもらえるといい。
- ・休校は仕方なかったが、ペースが乱れすぎて、なかなか元に戻らない。
- ・聴覚過敏があるので、少人数で短時間の授業は負担が減って良かった。
- ・分散して少人数のほうが、子どもたちが騒いだりせず落ち着いていた。

【高校生・専門学校生】

- ・休校中の各学校の対応が校長の判断によって分かれ、差が出たようだ。
- ・休校中、課題の量が多くて大変だった。本人任せにしたので、最後ため込み、徹夜で課題をしていた。
- ・休校期間があったため、現在、授業を詰めて行っている。課題も多いので大変。
- ・体調が軽快し、心理社会的ストレスが軽減し、良いことの方が多かった。

【短大生・大学生】

- ・大学の試験はレポートか大学に登校して試験か家での試験か、直前まで二転三転し相当ストレスが溜まった。
- ・友だちと交流が減り、授業で困っている。
- ・大学に入学して、同級生が誰もわからず、サークル活動もなし、友達が全くできないのが寂しいようだ。

3、学校のICT教材や動画、パソコンやタブレット端末等による個別学習や同時双方向型の指導の導入について

【小学生・中学生】

- ・不登校気味なのでオンライン授業やタブレットでの学習が進むとよい。
- ・授業をくりかえし視聴できるシステムにしてほしい。画面にずっと集中するのは本当に疲れるようで、7時

間授業が終わった時にはいつもぐったりしていた。

- ・ ICT リテラシーについての事前教育を行ってほしい。 ・ タブレット学習についていけるのか不安。
- ・ 発達障害や色盲色弱に配慮したフォントや色使いのアプリ、読み上げソフトの導入をしてほしい。
- ・ 親も端末機に詳しくないため、親にも、利用方法を学ぶ機会があると助かる。
- ・ 板書が遅く苦手なため、タブレットなどの導入は望ましい。使用方法や本人へしっかりと説明することや担任など教員も熟知できるか不安がある。
- ・ パソコンでの授業に参加している確認が取れれば、出席扱いになるといいと思う。
- ・ 学習支援アプリなどが特性のある子にも合うものだと助かる。合ってなかった。
- ・ 一人ずつタブレットを使い授業したり、調べたりして楽しいと言っていた。

【高校生・専門学校生】

- ・ リアルかオンラインを自由に選択でき、テレワークの推進と共に学校も登校日を減らして欲しい。
- ・ 引きこもりが認められて楽になっている。オンライン授業は、教室での授業より集中できて理解力が増した。
- ・ オンライン授業の顔出し声出しが難しい人への個別の配慮が必要。一斉オンライン授業での個別配慮は、対面授業より困難で不安。
- ・ 導入をし始めているものの、そういうのに詳しい先生に限られることもあり、なかなか進みそうもない。
- ・ 世帯によってオンライン状況(ハードや通信環境)に差があるので、自治体の援助等が必要。
- ・ 市町村レベルで差がありすぎる。タブレット配布等、是非、国レベルで進めて欲しい。
- ・ ICT 等は進めてほしい。それぞれの特性に合った学び方を選択できると良い。
- ・ オンライン授業は今も続いているが、学習に集中しづらく、身につけているのかどうか分からない。
- ・ 休校時はオンライン操作など慣れない上、課題の提出期限があるものも多く、一緒にせねばならず手間取った。

【短大生・大学生】

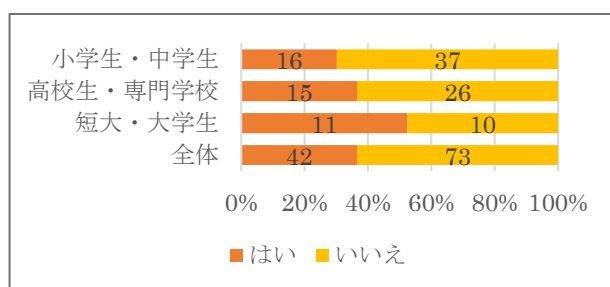
- ・ 大学での対面授業がほとんどなく、本人のやる気も削がれていっている。また、オンライン授業や画面上の字を追うのがつらいらしく単位も落とし、入学したばかりで既に留年しそうである。
- ・ 実習や実験についての相談や引き継ぎがオンラインでは十分にできず不安があるようだ。
- ・ 普通の授業より過度に集中するようで、目も精神的にも通学より疲れるようだ。通常の授業時間より短めが良い。
- ・ 担当教員によって、ソフトが違うため、使用方法に戸惑っていた。
- ・ 同時双方向授業が少なく、動画・コンテンツを見せるだけのオンライン授業が多い。本人の集中力が続かない。
- ・ パソコン操作がうまくいかず、単位を取るのも苦勞している
- ・ 移行のよい機会だと思うが、すべてがこれだけになると、コミュニケーション不足が懸念される
- ・ 先生の知識や技量が追い付いていない。

4、お子さんの学習環境の変化について

①不安や心配はありますか？

・ 小学生から大学生までの37%が「学校・園における学習環境の変化を不安に思っている」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	30%	70%
高校生・専門学校	37%	63%
短大生・大学生	52%	48%
全体(平均)	37%	63%



グラフ中の棒上の数字は人数

②学習環境の変化についての不安や心配

【小学生・中学生】

- ・ 自分で勉強できる子どもと、支援が必要な子どもとの学力の差がどんどん広がる気がする。
- ・ 休校措置や短縮授業の後、詰め込み式になり、パニックをよく起こし、自傷行為がひどくなっている。

- ・友達に教えてもらうことが難しくなる。コミュニケーションを学ぶ機会が失われてしまう。
- ・実習や体験学習のようなものが中止になっている。
- ・休校分を取り戻すため、授業の進め方が早く、余計ついていくのが大変になったような気がする。

【高校生・専門学校生】

- ・基礎的な知識の定着が軽視され、「アクティブ・ラーニング」の授業が一層増えた。それが本来めざすべき「主体的・対話的な深い学び」にはなっておらず、話し合いをさせて終わりという授業が多い。
- ・キャリア教育がコロナによってどうなるか不安。

【短大生・大学生】

- ・大学側の予定がコロコロ変わり、子どもが疲れて休学することになるのではと心配。
- ・対面授業が減って、学校へ登校する生活リズムがかなりずれてしまい、今後それをどう立て直していくか？本人のモチベーションが下がってしまっている事も心配。
- ・本人がつまらない。集中力が続かない。学校からどんどん送られてくるメールを読むのがきついと言っている。
- ・実習系の授業など友だちの影響を受けながら、何とかやってこれていたが、自宅で自力でやらなくてはならないようになり、とても困っている。単位を取れるのか、卒業できるのか不安である。
- ・授業や資格試験の対策、就職活動の指導など、例年通りしてもらえるのかどうか心配。

5、クラブ活動等の変化について

【小学生・中学生】

- ・毎年恒例の市内行事が中止になり参加できなくなった。活動が減り、体験の幅が狭くなるのが残念だ。
- ・できる範囲でいいので、再開してほしい。

【高校生・専門学校生】

- ・秋に部活の大会が再開し、スケジュールがタイトになった分ほぼ毎週末でかけることになり、疲れている。
- ・大会がことごとく中止になり、意欲低下している。
- ・入学当初にアプローチがなかったため、入れない。

【短大生・大学生】

- ・部活やサークルの勧誘は制限されており、体験の機会が少ないので入っていない。
- ・大学に入学して以来、サークル活動が全くできていないのが寂しい。

6、進学への不安や課題について

【小学生・中学生】

- ・学園祭など、気軽に学校見学に行ける機会がなくなってしまったのが残念。
- ・コロナで満員電車の不安がある。高校受験だが、徒歩通学できる学校に限られていて、困っている。
- ・説明会、体験学習の機会が減り、進路を決定するための生の情報が不足していると感じる。
- ・情報交換する場や機会が減って困っている。 ・進路を考えるための学校公開や見学ができない。

【高校生・専門学校生】

- ・大学入試が滞りなく実施されるのか不安。
- ・出願等全ての手続きがオンライン化しているが、それが苦手な子供にとっては厳しいと感じる。
- ・オープンキャンパスに行けない。
- ・専門学校の見学会がなくなったり、体験の時間が短かったりしていたので、進学先の決定が不安。

【短大生・大学生】

- ・卒業論文執筆へのコロナによる影響。

7、就職への不安や課題について

【高校生・専門学校生】

- ・障害卒の就職などさらに厳しくなる不安がある。
- ・就職の募集の取り消しが学校にきている。今年だけでなく、来年の予定もないという企業もあるようだ。
- ・就職のための面接など、ただでさえ苦手なのに、どういう形になるかわからないので不安。

【短大生・大学生】

- ・苦手なオンライン面接に苦勞している様子。
- ・一般就勞の障害者枠を希望しているが、どこまで希望通りに行けるか不安。
- ・実習・資格取得への影響。
- ・インターンシップができずにいる。
- ・大学のキャリアサポートがオンラインになり縮小している。

8、その他、学校・園における変化について

【小学生・中学生】

- ・学校行事の縮小や中止でがっかりしている。参観日も開催されず、学校での様子がわからず心配になる。
- ・学校は参観日や運動会、各スポーツ大会の中止、修学旅行、県内に行事が縮小されている。
- ・行事で疲れてしまうことが無いので、その分遊びの時間が増え、充実して過ごしている部分もある。

【高校生・専門学校生】

- ・発達障害のある子どもにとって、学校は社会性を学ぶ極めて重要な場所。にもかかわらず、コロナを契機に「個別最適化」をめざす教材等が一気に導入され、社会性の獲得が一層軽視される傾向にある。これでは、学校に行っても社会性を学ぶ機会が保障されないのではないかと危惧している。
- ・体調変化について敏感になった。ちょっとした調子が悪いと、すぐ休めるようになった。
- ・友だちとの関わりがLINE 中心になって、やりとりがこじれることがある。スマホを触る時間も増えている。

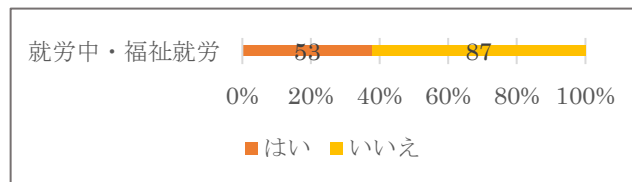
【短大生・大学生】

- ・大学での学びはオンラインでは不十分だと考える。実際に友だちと共に学ぶことが中々こそ、また、実際に経験して学ぶことがあると思う。対面授業も始まっているが、我が子は1年間オンラインの授業ばかりとなった。社会に出る前の社会経験を積むせっかくの機会だったのに、無駄に時間が過ぎていっている
- ・学外の活動の内容から見直しをする必要が出た。学外への学習機会の減少によって、学びの質が保てない。
- ・登校カリモートか、本人が選べる授業が少しずつ出てきている。本人の体調などにより柔軟に授業のスタンスを決められるのは良い。
- ・多くの人（学生）と触れ合わなくて済む。聴覚過敏に苦しめられなくて良い。教授との距離が近くなった。

Ⅲ、仕事環境の変化 【就労中・福祉就労】

1、緊急事態宣言解除後、元の環境に戻りましたか？

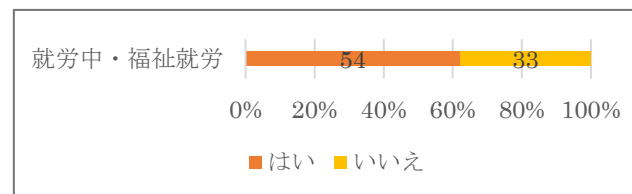
- ・はい：38%・いいえ：62%



グラフ中の棒上の数字は人数

2、戻っていない場合、現在の環境に不便や不満はありますか？

- ・はい：62%・いいえ：38%



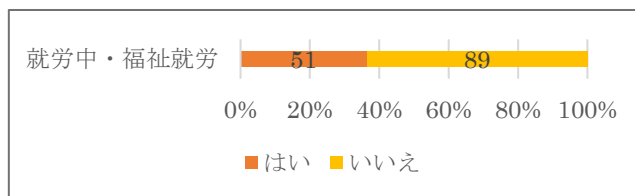
グラフ中の棒上の数字は人数

3、具体的にどのような不便や不満ですか？

- ・作業所の仕事が少なくなり、通所日数が少なくなった。
- ・仕事のシフトが不規則になった。
- ・毎年実施される技能研修がなくなった。
- ・職場が狭く、密になりやすい。
- ・会社の人に規定で、外に行く時の制約が厳しいため、ほとんど地域外へ行けない。
- ・少しの体調の変化があっても上司から休むように指示され、本人が神経質になっている。

4、雇用面や経済状況に不安や心配はありますか？

・はい：36%・いいえ：64%



グラフ中の棒上の数字は人数

5、具体的にどのような不安や心配ですか？

- ・雇用が社員からアルバイトになってしまった。 ・給料が下がった。
- ・ずっと雇用契約継続してもらえないか不安。 ・契約期間が短くなった。
- ・仕事がなくなり、いつ解雇されるか不安。 ・雇用が厳しくなるのではと不安。
- ・現状でボーナスは少ない。今後、雇用の継続や昇給など影響が起きなければいいと思う。
- ・失職したので、仕事を探さなければ！
- ・職場内で感染者が出て、（濃厚接触者ではないが）強制的に2週間出勤停止になり、給与保障はなかった。

6、その他、仕事における変化について

- ・少しの体調の変化があっても上司から休むように指示され、本人が神経質になり、健康不安を強くしている。
- ・ステップアップのためのインターン活動ができない。
- ・検定試験を目標にしていたが、研修会や検定が無くなり、先の見通しが不安。
- ・社員が交代でリモートに入るために、入社しなかった人の仕事を覚えるのは、大変だったようだ。
- ・コロナの影響で夜勤の時間帯が変わり、家族とほとんど会えない状況になった。
- ・毎日の検温、昼休みの取り方、手袋、マスクなど細かい規則が増えてとても疲れる。
- ・屋外での仕事なので、マスクの着用が増えている中、暑い時は、熱中症対策が大変だった。
- ・仕事が待機で休みが続いたり、急に出勤になったり、今でも時々疲れやすいようで、休むことは増えている。
- ・第一波の時はイレギュラーな仕事が多くなり、忙しかったので疲れていた。
- ・会社から県外に出かけないようにと指示があり実家に帰れない。会社からの「できるだけ県外に行かないように」との「できるだけ」という曖昧な指示は混乱するようだ。
- ・コロナで通勤は家族が送迎している。家族の負担が大きく、移動支援を使いたい。

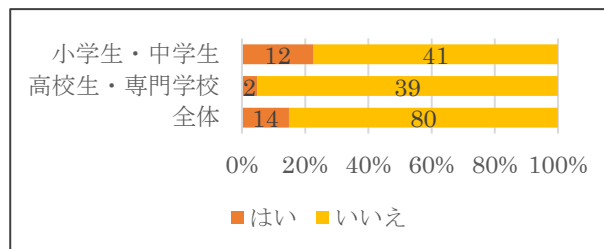
IV、支援機関の環境の変化

1、放課後ディサービスや発達支援サービスでの活動について

①不安や不便はありますか？

・小学生から中学生の23%が「放課後ディサービスや発達支援サービスの変化を不安に思っている」と回答

	はい	いいえ
小学生・中学生	23%	77%
高校生・専門学校	5%	95%
全体（平均）	15%	85%



グラフ中の棒上の数字は人数

②放課後ディサービスや発達支援サービスで不安や不便なこと

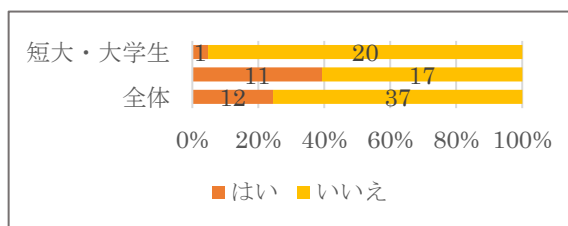
- ・色々な地域の人が狭い空間に集まるので不安。
- ・学校以外で密になる状態が増える。お互いが戸惑いストレスが増えている。
- ・ソーシャルディスタンスがとれない、マスクを外してしまう。
- ・感染の不安はあるが、親にとっても子どもにとっても大切な時間なので参加していた。
- ・マスクや手洗いが出来ない利用者が多く、密な環境。
- ・換気や消毒がきちんとされているかが保護者にはわからない。

2、就労移行支援や就労継続支援の活動について

①不安や不便はありますか？

・就労準備中の39%が「就労移行支援や就労継続支援サービスの変化を不安に思っている」と回答

	はい	いいえ
短大生・大学生	5%	95%
就労準備中	39%	61%
全体（平均）	24%	76%



グラフ中の棒上の数字は人数

②就労移行支援や就労継続支援の活動で不安や不便なこと

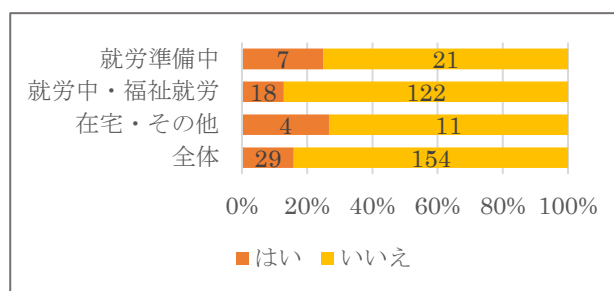
- ・就労支援はWEBでは難しいと思うので、在宅支援に戻ってほしい。
- ・ウェブ面接で緊張してしまい、もともと対人で話す事が苦手なのに、余計に上手く受け答えできない。
- ・求人がない。障害者雇用での雇用が、ひどく限られている。
- ・実習に行けなくなって、経験する場が少なくなり、就職への道が遠くなったように感じる。
- ・就労継続支援で会社への訪問が制限されているのではないかと心配。

3、発達障害者支援センターや障害者就労・生活支援センター、ハローワーク等の利用について

①不安や不便はありますか？

・就労準備中の25%、在宅の27%が「ハローワーク等支援機関について不安に思っている」と回答

	はい	いいえ
就労準備中	25%	75%
就労中・福祉就労	13%	87%
在宅・その他	27%	73%
全体（平均）	16%	84%



グラフ中の棒上の数字は人数

②支援機関・ハローワーク等の利用について不安や不便なこと

【就労準備中】

- ・コロナで失業者が増え、ハローワークがものすごく混雑しているため、感染しないか不安。
- ・就労体験ができる企業が少なくなった。コロナ禍でハローワークでじっくり話を聞く時間が短くなった。
- ・支援センターの活動がなかなか元に戻らず、人との交流が減ってしまったのが残念。
- ・就活がうまくいかないのが不安になり、体調がくずれやすい。

【就労中・福祉就労】

- ・リモートや電話だけでは相談がうまく行かないかもしれないという不安がある。
- ・地域活動支援センターの開所時間が短くなった。

【在宅・その他】

- ・コロナ禍で積極的に利用すべきか考えてしまう。
- ・支援施設は時短で開所しているが、何人の人が来所するか判らず、密になると困るので避けている。

③支援機関・ハローワーク等の利用についてどうなれば不安が軽減できるか？

【就労準備中】

- ・ハローワークがものすごく混雑しているため、オンラインを活用して密にならないよう工夫してほしい。
- ・支援センターの余暇活動が思うようにできない。

【就労中・福祉就労】

- ・電話相談は、相手の顔が見えないので、オンライン相談に切り替えてほしい。
- ・リモートや電話だけでなく、以前のように対面で話をしてほしい。
- ・ハローワークで、ネット環境のある人はリモートにしてほしい。

【在宅・その他】

- ・支援施設利用の人数制限と時間予約できるといいが、そこまでは無理なようだ。

V、政府や自治体の施策について

1、新型コロナに対する施策等に対する情報保障・給付金や補助金の申請や利用の手続きについて

【短大生・大学生】

- ・学費免除申請や健康診断申し込みは、親が手伝わないと自分ではできなかった。手続きが分かりにくい。
- ・書類の添付が多く、申請方法が細かく分かりにくい。オンラインのみの状況もスキル不足による不安がある。
- ・今回は親がおこなったが、親がいなくなったら、我が子はどうしたのかと心配になる。

【就労準備中】

- ・手続きについては、ネットで比較的簡単に出来れば助かる。
- ・本人だけだと、理解できず手続きはできないと思う。
- ・就労者には給付金補助金制度があるが、求職者は対象とされていない。コロナの状況で雇用が著しく減っているため、障害のある求職者には益々厳しい状況となっており、支援給付金対策があってほしい。
- ・就労支援施設に通える期間を1年延ばして欲しい。コロナが長引くようなら更なる延長も考えて欲しい。

【就労中・福祉就労】

- ・給付金の申請など、親と同居しているので、親が申請をしたが、一人でとなると難しかったかもしれない。
- ・本人の理解に問題があるので、手続きを手伝ってくれる方がおられたらいいと思う。
- ・各種申請については、簡単にしてほしい。
- ・申請の書類はやはり分かりづらい。
- ・情報不足で分からない
- ・セキュリティ（本人確認）の問題があるため、手続きが煩雑になっている。親でも分かりにくい。本人が手続きをするのは難しい。
- ・まずそもそも知的障害者がわかるような情報発信や補助金等のお知らせを出してほしい。日本は自分から申請しないと何もしてくれない。それでは本当の弱者が一番救われていないと思う。

【在宅・その他】

- ・手続関係が苦手なので、障害年金など更新時期でしたが一年延期になり、助かりました。
- ・10万円の給付金申請書の記入方法が分かりにくかった。

アンケート回答から見える今後の「新しい生活様式」への課題

環境の変化に弱い発達障害児者にとって、2020年の新型コロナウイルス（COVID-19）、対策による生活の変化は大きなストレスになっていると思われます。終息への見通しも持てない中で提言された「新しい生活様式」ですが、発達障害児者にとってコロナ以前よりも落ち着いて生活できるものである必要があります。

新しい生活様式は、「密閉」「密集」「密接」といういわゆる三密の回避対策が基本となるため、今後、学びの場や人とのコミュニケーション、経済活動、情報の入手等あらゆる分野で、非対面型・非接触型のオンライン化が進むと予想されます。発達障害の子を持つ親としては、「苦手なコミュニケーション力が益々苦手になり、避ける方向性が加速するのではないか」「電子決済が進められていくと、何かあった時に対処できないのではないか」という点に不安に感じていることが、アンケート回答から読み取れます。

新しい生活様式として、社会で非対面型システムが進められていく上で、発達障害児者がその特性から情報を得ることができずに孤立することがないよう、手立てを講じる必要があるといえます。

1、急な環境変化に対して丁寧な説明と対応ができるような学びの場の構築

- ・少人数学級
- ・ICT活用による一人一人に合った学びの環境設定

2、変化していく環境にあって、必要な情報入手や手続きの進め方に対する支援システムの構築

- ・支援機関の充実
- ・一人一人のニーズに沿った支援
- ・相談窓口の明確化と支援機能の充実

例：オンライン化や電子決済などの手続きの親身になった説明や支援